



広報 Nikaho City

にかほ



鍋っこは楽しいね！

9月29日、小出小学校の児童たちが奈曾川河川公園で鍋っこ遠足。とん汁とカレーをみんなで協力して調理しました。野外での昼食は格別の味わいだったようです。

青く高い秋の空の下で、子どもたちは季節ならではの行事を楽しみました。

主な内容

- 合併五周年記念式典 P 2 ~ 3
- 人事行政の運営状況 P 4 ~ 6
- 生活安全情報 P 7
- まちの話題・さわやかスポーツ P 8 ~ 10

vol.122 10.15
2010

<http://www.city.nikaho.akita.jp>

白瀬南極探検隊100周年記念特集

その七

白瀬（前列中央）と隊員たち



未知に挑む

白瀬隊の防寒具



白瀬隊の装備品は衣食住用と学術調査用の機械類、銃や短剣等の武器類、樺太犬と橇、薬品類など多岐にわたります。酒は特別な日に振る舞われましたが、南極圏に入ると飲酒は厳禁。極地での炊事用燃料としても活用されています。

白瀬や隊員が着た毛皮は、陸軍から試験的に寄贈された防寒服でした。この毛皮製防寒服は樺太犬の毛皮を裏表二重に縫い合わせたもので、頭巾と上着、ズボン、手袋に分かれています。

もぐり込んで着用する上着。肩から紐で釣り、腰で結ぶズボン。手袋も紐で肩にかけ、頭巾は上着に結びつけて着用しています。樺太犬の毛皮を

密着するようにできていました。作業をするとき汗をかき、それが氷結して見えなくなるため、長時間の使用は難しかったといいます。

靴は氷上用を含め、数種類用意しています。騎兵が乗馬で使用した絨靴と呼ばれる靴は、毛皮と同様に陸軍から寄贈されます。防寒の効力はあります。だが、氷上で作業には、鉄製のカンジキと合わせて使用すると、あまりに重く氷上歩行には適当ではなかったようです。代わりに、木綿と毛織の靴下3枚をはいて藁靴を用いたところ非常に軽く、雪の坂を登るのにも滑らず、内部が湿つても寒さを感じなかつたといいます。しかし、一日一足から二足は履き潰すなど、長持ちはしませんでした。一番重宝した靴は、アイヌの人

々が使ったとされるアザラシの皮で作られた靴だったといいます。湿気が内部に入らず、軽く、雪にぬかるることもなかつたため、南極点に向かう白瀬轟、武田輝太郎、三井所清造、山辺安之助、花守信吉の突進隊が使用しました。

今年度、学術部長の武田輝太郎が使用した毛皮製防寒具とサングラスなどを、白瀬記念館で寄託資料として預かることになりました。少し



TEAM BASE CAMP



にかほ市は2022日本招致のチームベースキャンプです。

企画・編集／にかほ市広報委員会 発行／にかほ市役所

〒018-0192 秋田県にかほ市象潟町字浜ノ田1番地

☎ 0184-43-3200 (代表) ☎ 0184-43-7510 (直通)

ホームページアドレス <http://www.city.nikaho.akita.jp> 電子メールアドレス info@city.nikaho.lg.jp

広報にかほは、にかほ市ホームページでもご覧いただけます

内に縫いつけた寝袋は、氷の上でも大変暖かかったといいます。

南極では雪盲といつて目の角膜などに炎症を起こすことがあります。それを防ぐためのメガネは潜水用の眼鏡に似て、黒レンズの周囲に皮を縫いつけ、目の縁に密着するようにできています。作業をすると汗をかき、それが氷結して見えなくなるため、長時間の使用は難しかったといいます。

▼武田学術部長使用的樺太犬毛皮製防寒具

